須田寛氏を悼む

公益財団法人
きょうと視覚文化振興財団
理事長　岩城見一

2024 年 12 月 13 日、弊財団の理事・須田寛氏が永眠されました（享年 93)。寛氏は、洋画家須田国太郎氏（1891-1961）のご子息で、国太郎の旧居を整理されたのを機に、その遺産をご父君が目指した日本の美術振興に充てるべく、2019 年 11 月 1 日、故原田平作氏（1933-2023）を理事長として、一般財団法人きょうと視覚文化振興財団を創立されました。財団は、寛氏のご協力をえることで、2022 年 8 月 1 日には、活動をさらに強化するために公益法人に移行し、現在、機関誌発行、調査研究、連続講座とワークショップの開催、展覧会支援、展覧会企画という 6 つの事業を展開することとなりました。

寛氏は、財団創立以来、JR 東海のお仕事の合間を縫って、積極的に理事会・評議員会に出席され、ご父君が絵画制作と美術史研究の両方に注力されていたことを念頭に置いて、視覚文化の制作と仲介の両側面を支援しようとする財団の運営を、大所高所から、温かく見守っていただきました。それだけでなく、コロナ禍の中、氏は連続講座の講師として、ご自身のご経験をもとにした「視覚に訴える鉄道のイメージアップ策」と題する氏ならではの大変興味深いお話しをご披露くださるなど、財団の活動にも積極的に参加されました。新幹線並みの早口で、明晰かつ軽妙に議論を展開されたことが強く印象に残っています。

本年 3 月の理事会と 6 月の評議員会には、療養先から ZOOM 参加され、私たちはご体調を憂慮していましたが、昨年 10 月 28 日から、碧南市藤井達吉現代美術館を皮切りに、本年 9 月 8 日まで、全国 5 館を巡回した弊財団共催の「生誕１３０年・没後６０年を越えて 須田国太郎の芸術 ― 3 つのまなざし」展の最終会場である世田谷美術館には、車椅子ながら、お元気に来場されました。9 月 5 日のことです。このことを知って私たちは安堵し、ご回復を心待ちにしていましたが、それは叶わぬ願いになりました。ご父君の業績に新しい光を投げかける展覧会をご覧頂けたことは、財団関係者にとって、せめてもの慰めです。寛氏から賜った財団創立、運営に対するご尽力、私たちの活動を温かく見守ってくださったお心に改めて謝意を表し、心よりご冥福をお祈りします。(2024 年 12 月 24 日記す)。